

研究課題名	低侵襲心臓手術における人工心肺灌流量の検討
研究の意義・目的	従来、心臓手術では生体の心臓と肺の機能を代行する、人工心肺装置が使用される。人工心肺を使用するにあたり血液を機械から生体に送り出す灌流量(体に流れる血液の量)を決定する必要がある。灌流量を決めるには体表面積に心係数(心臓の機能を、個人の体格に応じて補正して表す指標)を掛け合わせる事で算出される。心係数は成人の場合、2.2~2.6ml/min/m <sup>2</sup> とされているが概ね2.4 ml/min/m <sup>2</sup> を至適灌流量として、安全な体外循環管理が行われてきている。しかし近年、ロボット手術や小開胸(小さな傷で行う手術)等の手術手技の低侵襲化(手術が与える生体への影響を少なくする)に伴い人工心肺中の管理は、術野の視野確保の為に心係数が2.4 ml/min/m <sup>2</sup> を下回る事がある。本研究を行い、従来の規定値を下回って行う場合の患者への影響を調査し、安全な手術が可能かを検証します。
研究を行う期間	倫理審査委員会承認後~2021年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2019年1月1日~2019年12月31日までの期間で大阪市立大学医学部附属病院、心臓血管外科において人工心肺を使用して心臓手術を施行した方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、検査データ、体外循環記録、入院サマリ】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院医療機器部のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院医療機器部のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学医学部附属病院 医療機器部 研究責任者：西村祐紀
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学医学部附属病院 医療機器部 (担当者氏名) 西村 祐紀 メールアドレス：nishimura.yuki@med.osaka-cu.ac.jp